

滋賀県立高等学校再編計画(案)説明会 意見概要

<湖北文化ホール>

- 日 時 平成24年(2012年)11月14日(水) 19:00~21:15
- 場 所 湖北文化ホール (保護者対象:参加者47名)
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 計画案の表現が抽象的で、多様なニーズがピンとこない。データを提示してほしい。地域の学力向上は重要なテーマだが、計画案には基本的な間違いがある。8学級以上では学力が低下すると考えている。
- 統合すると学校までの通学時間が長くなる。湖北地域は多くの生徒が自転車で通学しており、統合は認められない。
- 学校は地域の資源であり、資源を均等にばらまくことによって、地域の教育効果として学力向上が期待できる。学校が地域からなくなると、地域住民への効用がなくなり、地域の学力が低下することになる。
- 大きな学校にすると教育効果が上がるというのは、世界的な方向とは逆である。OECD諸国の中で、日本の生徒一人当たりの公的支出は世界最低。日本も小規模で対応すべき。
- 少子化は今に始まったことではない。各地域に資源を分配し、人口流出を防いで出生率をキープすべきである。
- 施策、政策の基本は、地域に眠る資源を最大限活用すること、資源を評価することと考えると、資源を評価することになっていない。このため学力低下が起こり、ひいては地域の流出人口も増えることになる。実行不可能な安易な統合は避けてほしい。
- 再編計画については、学校、PTA、住民、保護者、教育委員会、有識者が協議し、住民の意見を聞いて、住民の最大効用化を考えて進めてほしい。
- 県教委には総合調整能力を期待しているが、この力を発揮して多くの県民の意見をどう集約したのか。
- 魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりとあるが、長浜高校には福祉科があり、高等養護学校があるのが特色だと思っている。一昨年、一年間の猶予期間を経て、多くの意見を聴いて計画原案を公表し、さらに一年間、パブコメや説明会を実施した中で、どういった意見を拾ったのか。
- 再編統合は、20年、30年のスパンではなく、もっと長いスパンの中で考えるものである。
- 普通科への進学傾向が高まり、普通科へのニーズが高まっているというのに、なぜ普通科の長浜北高校や彦根西高校を廃校にするのか。100年の伝統はどうなるのか。
- 小規模校では活力がなくなるというのは、部活動を想定して言っている。指導者の力量で決まるものであって、学校規模の大小では決まらない。
- 部活動について、大きい学校が良いとこの前の説明会で説明されたが、小さい学校でも頑張っている。伊吹高校は4学級の小規模校であるが、男子ホッケー部は今年度インターハイ、国体、選抜大会で3冠を達成している。野洲高校も4~5学級規模でサッカー部が全国制覇している。野球部も頑張っている。長崎の国見高校も同じ学級規模である。長浜高校の女子ソフトテニス部も春の県大会で準優勝している。

- 虎姫高校や彦根東高校にトップの子を取られて、これに勝る進学校は作れない。
- 統合後の新校の目指す視点、ねらいは何か。湖北地域の既存の普通科単独校と並び立つ中核的な普通科単独校の設置とは、具体的には虎姫高校と並び立つということを示しているのか。並び立つとした場合に、長浜北高校に入れていた生徒が、学力的に入れるのか。
- 英語教育で特色化と言うが、英語教育は当たり前。高校での学習の第一目標に上げるのは間違っている。この地域の子どもに必要なのは、ポルトガル語の学習ではないか。
- 統合によって、違う高校が一つになって部活動はどうするのか。施設の問題はどのように考えているのか。文化祭や体育祭はどのように取り組んでいくのか。
- 長浜の優秀な子どもたちが、大津や彦根に流出している。駅のすぐ近くに、虎姫高校に匹敵するなど中途半端なことは言わないで、膳所高校、彦根東高校に匹敵する新校を建て、大津や草津から生徒に来てもらえば、湖北の子どもたちは湖北の地で切磋琢磨できるのではないか。このような夢のある計画を検討してほしい。
- 2年間もプレハブ校舎で過ごす生徒の気持ちを考えたことがあるのか。生徒の気持ちに立って考えてほしい。30億はもったいないと嘉田知事に伝えてほしい。
- 平成28年度に統合を開始し、2年間は長浜北高校でプレハブ校舎で学習することになる。学習環境を整え、生徒のストレスを最小限に抑えるべきではないか。彦根西高校のように一度にする方が良いのではないか。
- 中学校2年生、小学校6年生の子どもがおり、再編の対象となる子どもはかわいそうだと思うている。
- 長浜北高校を中学校2年生が受検する時の学級数は何学級か。現在、長浜北高校と長浜高校は5学級であり、統合する時期の生徒数が現在と変わらないとすると、10学級を保障してもらえるのか。
- 長浜新校の学級数は8学級だが、子どもの数は今年と変わらない。2学級分はどこかで保障してもらえるのか。
- 耐震工事は、全ての高校で終わっていると思っていた。阪神淡路大震災から20年以上経過しているのに終了していないのはなぜか。
- 長浜北高校の耐震工事をするのか、しないのかはっきり答えてほしい。
- 県立高校で最初に耐震工事を実施した学校はどこか、何年度なのか。子どもの安全性がないがしろにされている高校はどこか。耐震工事をしない高校はどこか。このスピード感のない施策はなぜか。不公平感いっぱいの順番はなぜか。
- 平成30年度に長浜北高校と彦根西高校は実質的に廃校となるが、跡地はどのように利用する予定なのか。例えば私立高校を誘致するとか、廃校はするが発展的な利用をすべきではないか。
- 職業学科は企業が求める人材を育成している。総合学科の学習では、企業が求める人材を育成できない。
- 長浜高校福祉科を廃止する理由は何か。総合学科の福祉系列になると、どう変わるのか。
- 長浜高校福祉科を廃止するのは、3年間で介護福祉士の国家試験の受験が無理だから、あるいは志望が少ないからか。
- 工業高校の小学科改編は、どのような形で、どのような理由で行うのか。

- まちづくり系列が消えた理由は何か。
- 全県一区については歪みが出ているように思う。急に生徒数が減っている地域はなく、大津や湖西でも生徒数が減っている。意図的に作られた制度であり、彦根や高島からも大津に行くようになり、特定の学校に生徒が集中することになっている。そのことによって地域間の生徒数の格差が生じている。この歪みを解消するために学校を廃止しようとしているが、学区制に戻すべきである。
- 学校の特色は、生徒が主人公であり、地域、学校、保護者がつくるものであり、県教委が上からつくるものではない。
- 行きたい学校に行けるようにするというが、行ける生徒の数は少ない。成績上位の生徒しか、行きたい学校には行けない。地元にとどめて、やりたいことができる環境や学校をつくるべきである。
- 進学率が98%を超えたというなら、全入制にすればよい。根本的な改革が求められている。
- 特別支援教育を推進していくという発想が見えない。高校教育でも推進していく必要があるのではないか。高等学校の通常学級でも実施するという発想を踏まえた再編計画をお願いする。
- 長浜高等養護学校が長浜北星高校に移転することによって、利便性が増すというが、距離が若干縮まる程度で、本当に利便性が上がるのか疑問である。
- 平成25年度に愛知高等養護学校ができるが、特別な教育をするには、農業を通じた作業学習が重要だと考える。長浜農業高校、八日市南高校、湖南農業高校の施設・設備、専門の教員もいるところで、高等養護学校は設置すべきではないか。
- 伊吹高校に空き教室はあるのか。選択授業で使っているはず。長浜新校では、各学年1フロアを使うという説明なのに、伊吹高校はそうではなくなる。考慮してほしい。